

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇共通指標アンケートから、「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある」等の振り返りに関する項目に肯定的な回答をした児童が増えていることから、日常の実践や研究を積み重ねてきた成果が表れていると捉えている。</p> <p>◇ICT活用アンケートから、端末を活用することで、「勉強がおもしろい、楽しい」「学習が充実している」と回答している児童の割合が8割を超えている。</p>	<p>◇表現力の育成を目指し教育活動を進めてきたが、「自分の意見を進んで発言している」等、表現力に関する項目に肯定的な回答をした児童の割合はほぼ横ばいであった。</p> <p>◇保護者アンケートや全国学力・学習状況調査等から、家庭での学習時間に関する質問への肯定的な回答の少なさが目立つ。</p> <p>◇ICT活用アンケートや児童の実態から、端末を活用するルールやマナー等、「生活を自らコントロールする力」に課題が残る。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標アンケートで、「自分にはよいところがある」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」等、自己承認・自己有用感に関する項目について、肯定的な回答の割合が高い傾向にある。しかし、「人のよいところを見付けようとしている」等、他者受容に関する項目は他の項目と比べると低い傾向にある。</p> <p>◇「PLASのまほう」を踏まえた自立的な活動による仲間と支え合う活動（学級会活動等）や縦割り活動、児童会活動・クラブ活動により、相互承認の感度を養っていきたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら学ぶ子の育成

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「自ら学ぶ子」の育成を目指して、教職員が互いの授業案や授業自体を交流する機会を設定する。</p> <p>(2) 「表現力の育成」「自らの学びに手応えを感じられる振り返り」を視点に、AARを育成するプロセスを重視した課題探究的な学習を目指す研修や研究を推進する。</p> <p>(3) <u>リアル感や本物との出会い等から対象や人とつながり、自分を高めようとする子どもを育てる。</u></p>	<p>①自分たちで創り上げていく活動を通して、自分のよさや伸びを感じ、よりよい自分を目指して前向きに生活する心、相手意識を育てる。 →<u>学校行事、ペア学年活動、縦割り活動等における自主的な活動の振興</u></p> <p>②「PLUSのまほう」を踏まえた自主的な活動による仲間と支え合う活動を（学級会活動等）や縦割り活動、児童会活動・クラブ活動により、相互承認の感度を養う。</p> <p>③行事や委員会・生徒会活動を通して、パートナー校との活動の連携を図る。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇ICTの日常的かつ効果的な活用を目指した授業研究やキャリアステージに応じた校内外の研修の推進。</p> <p>◇主に(3)について、子どもたちが様々なツールの中から適切なものを選択し、学びの質を高めることができるようなICTの効果的な活用。</p> <p>◇主に③について、小中9年間を見通した情報活用能力の育成を目指し、札教研やパートナー校間研修を通して、情報共有・連携を図る。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

